

九大生が
案内する
世界の
キャンパス

留学先
大学

シドニー工科大学



(オーストラリア)

農学部・4年 石塚 友里絵(いしづか ゆりえ)

シドニー工科大学に留学して10ヶ月が過ぎようとしています。約25%の学生がインターナショナル生で構成されているこの大学は、オーストラリアでも有数の特色ある大学です。この大学の第一印象は、留学生という理由で特別扱いをされることはまずないということでした。現地の学生とほぼ同じように扱われ、何か問題があれば自身で解決策を考えなければなりません。

まず、他の、オーストラリアの特徴である多文化社会の恩恵を受け、西洋文化とアジア文化を同時に楽しむことができます。食はもちろんのこと、いろいろなバックグラウンドを持ったオーストラリア人たちと文化体験も共有できます。大学では専門教科である代数学、謝生化学、環境学、自由選択教科で中国語を勉強しています。生化学の授業では現地の学生とともに学生実験に取り組み、日本とはまた違う実験器具などを使い、日々発見や学びの連続です。留学の一番の魅力はやはり多くの人々との

出会いだと実感しています。現地のオーストラリア人とどまらず、各国から来ている交換留学生とともに時間や知識を共有し、日本にいては簡単に手に入れることのできない貴重な経験をしています。特に私の場合同僚のフラットメイトが国際色豊かで、互いの週末には母国料理をまかなってパーティーをしたりと、勉学の一方で、楽しむことも決して忘れません。初めのうちは不安ばかりだった留学生活も、新しくできた友達と過ごすことで充実したものになっています。



大学のクラスメートと(上段左端が筆者)

大学の特色



大学のシンボル

シドニー工科大学は中央駅から徒歩10分内と非常に立地条件がよく、26階建ての中央ビルは大学のシンボルにもなっています。大学の歴史は23年弱と短く、特徴ある学部としては服飾デザイン、ツアーズ、メディア学があります。その他多くの諸外国の大学と協定を結ぶことで大学の国際化に重点を置いていて、学生の約25%は留学生で構成されています。大学の敷地全体ではインターネットの無線LAN、校内の至るところには机とイスが完備され、学生に勉強する環境を常に提供しています。大学自体は24時間開いており、テスト期間は夜遅くまで残って勉強する学生も数多くいます。そのほか大学内にはジムやバー、カフェなどの娯楽施設も整っており、サークルや部活動、文化系サークルも80以上と充実しています。

交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>)をご覧ください。過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。